

伊達悠岳君

日本脳神経財団 2025 年度寺岡賞受賞

伊達悠岳君 [内科学 (神経)] が日本脳神経財団寺岡賞を受賞した。本賞は、認知症における優れた研究論文1篇に贈られる荣誉ある賞である。本学からは2023年下濱祥君の受賞以来となる。論文は "Can the clinical sign 'head-turning sign' and simple questions in 'Neucop-Q' predict amyloid β pathology?" (Alzheimer's Research & Therapy (2024) 16:250)である。診察の徴候「ヘッドターニングサイン」と、三つの質問からなる「Neucop-Q」で、アルツハイマー病の脳内アミロイド病理を80%以上の陽性的中立率で予想するものである。

本研究は、問診や診察室での観察という日常臨床の場で実施可能な極めて簡便な手法が、アミロイド病理を高精度に予測しうることを、PET 画像および血液バイオマーカーという客観的な指標で初めて生物学的に実証したものとして高く評価された。伊達君が本研究を足がかりとしてさらなる認知症研究を展開し、早期診断・早期治療の実現に向けてこの分野を牽引する研究者へと成長されることを心より祈念している。(内科学 (神経) 71 回生 伊東大介)